学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	基礎分析実習				
担 当 者	溝越 祐志、伊藤 洋志、山本 佐知雄				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>実習お疲れ様でした。器具の使用方法など基礎的な手技を行う実習で、退屈な面もあったとおもいますが、レポート作成含めて皆様よく頑張っていたと感じています。実験器具の使用方法は基本になる場所ですので、少しでも行ったことを覚えていただければと思います。</p> <p>さて授業評価の結果ですが、皆様からいただいた改善のコメントとそれに対する来年度の対策を書いておきます。コメントを書きくださった皆様、とても貴重なご意見ありがとうございました。教員としては、改善コメントが一番参考になりますし、有難いことですので、ぜひ次年度に生かしていきたいと思えます。</p> <p>改善すべきと思った点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見にくい。前の席なのに見にくいので、見やすくしてほしい。 <p>→授業スライドが見にくかったのか、モニターが見にくかったのか等、何が見にくかったのか書いていただくとさらに参考になったと思えます。本実習では試薬の劣化というハプニングがあり、皆様にはご迷惑をおかけしました。この経験をもとに、来年は試薬の変更含めさらに改善していきます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	技能修得到達度評価				
担 当 者	澤村 暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.4	4.2	4.4	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では臨地実習前の総復習として知識、技術、検査データの読み方について学んできました。皆さん自身も意欲的にこの授業に取り組んでいただき、その成果も実感していただけているようで安心しました。この授業を終えることで、自信をもって臨地実習に臨んでいただけていると思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学実習 I				
担 当 者	林伸英、澁谷雪子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.2	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>今回の実習では、A・B グループに分け、以下の 3 段階で実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習に関連する講義（遠隔：YouTube） ② 実習の具体的な操作（遠隔：YouTube） ③ 実際の実習（対面） <p>この遠隔での講義と対面実習を組み合わせた「ハイブリッド実習」は、「自分のペースで学べる」「じっくり理解できる」「何度も繰り返し学習できる」「わかりやすい」といった点で、多くの学生にとってメリットがあったと思います。しかし、その一方で、遠隔での予習をしないまま実習に臨むと、操作ができず、班での実習でペアの人に迷惑をかけてしまうという課題も見られました。実習オリエンテーション時に、遠隔での予習を必ず行うよう指導したにもかかわらず、十分に予習していない学生も一部見受けられました（授業外学修時間が 30 分未満の学生）。また、実習後の評価で「この授業で改善すべきだと思った点」に「授業の予習をしっかりとっていない人がある。何も分かっていない状態での参加、ペアの人とか同じテーブルの人で、予習動画で説明していたことまで全て教えて欲しいで実習に集中できない。」といった指摘がありました。今後、実習の質を維持し、全員がスムーズに学習できるよう、閲覧履歴のない学生には必ず予習をして臨むように厳しく指導します。</p> <p>レポートについて、今回の実習では通常のレポート形式ではなく、どのポイントについて書けばよいか分かるプリントを配布し、それに沿って報告してもらいました。この方式については「実習中にレポートを書ける」「レポート量が多くなく、早く帰れる」「書くべきことが明確でやる気につながる」といった好意的な意見が多く、全体的に好評でした。</p> <p>また、学生による授業評価調査の結果では「この授業に意欲的に参加した」87%、「レポートや課題のチェック・指導が適切だった」89%、「この授業を受けて満足している」83%と、高評価を得ることができました。遠隔で事前に内容や操作を学び、「何を実習するのかを把握した上で対面実習を行う」という流れが、皆さんにとって有効だったと感じています。そのため、自分で実験の流れを考え、主体的に実習に取り組むことができたのではないのでしょうか。一方で、新カリキュラムになり、2 年次後期からの専門実習は難しく感じる部分もあったかもしれ</p>					

ません。これに続く「実習Ⅱ」では、理解が不足していると感じる点について、さらに解説を加えながら進める予定です。

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学Ⅱ				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.2	4.2	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>臨床化学検査学（Ⅰ・Ⅱ）では、国家試験に出題される内容や重要な事項を理解することを目的に、教科書に沿った講義を行っています。しかし、教科書中心の授業は単調で退屈になりがちであるため、動画教材やスライドを活用したプレゼンを取り入れながら進めました。また、授業では重要な部分にラインマーカーを引くことも大切ですが、マーカーを引くことに集中しすぎると、授業内容が耳に入らず、理解が浅くなるという課題があります。そこで、事前にマーカーを引いた教科書の PDF を manaba にアップし、予習の段階で自分の教科書にマーカーを引くことで、授業時には内容の理解に集中できるよう工夫しました。実際にこの授業でよいと思った点に「マーカーが引いてあるので、大事なところが分かりやすい」という意見があり、この方法が授業の理解度向上につながったことが分かりました。また、授業評価調査では「板書、スライド、教材の使い方は適切だった」77%が肯定的な回答という結果が得られ、マーカーを活用した予習と、授業後の小テストによる復習が、皆さんの理解を深めるのに役立ったと考えています。</p> <p>予習は大変だったかもしれませんが、教科書につけたマーカーは、3年生になって B6 カードを使うようになったとき、国家試験の過去問の内容とマーカーの箇所が一致し、マーカーをした意義を実感できるはずですよ。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	検査管理総論				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.2	4.0	4.1	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>かつて、多くの検査部門ではトップ（部長）は医師、現場責任者は臨床検査技師長という組織体制が一般的でした。しかし、現在では臨床検査技師が専門技術者であると同時に、組織を統括し、マネジメントを担う体制が増えてきています。そのため、臨床検査技師としての専門知識・技術を磨くだけでなく、管理運営やマネジメントの視点を持つことが重要です。本講義では、そのような考え方を学ぶことを目的の一つとしています。</p> <p>新カリキュラムでは2年次後期に専門科目と同期して学べるように組み直されています。本講義では、検査室の管理運営、医療安全、精度管理、検査結果の評価、進路など、すべての検査業務に共通する内容を扱っています。そのため、通常の専門科目のように特定の技術を学ぶ講義とは異なり、専門性が見えにくく、分かりにくいと感じた学生もいたかもしれません。</p> <p>しかし、正確かつ迅速な検査結果の報告を行うために不可欠な考え方を網羅しており、卒業生からは「今になって検査管理総論の重要性が分かりました」という声をしばしば耳にします。皆さんが社会に出たとき、この講義で学んだことの重要性を実感する日が来ることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学実習				
担 当 者	鈴木 伊藤 溝越 鶴岡				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.4	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業評価のおかげで授業の改善点わかりました。ありがとうございました。</p> <p>公衆衛生学実習は前半の保健統計学の演習と後半の測定・解析実習とで成り立っています。前半で習った手法を後半で用いる流れになっています。皆様のご意見をみますと、概ね、本実習の内容・構成に肯定的な意見をいただき、担当教員一同ありがたく思っています。</p> <p>本実習で学んだ手法、考え方は今後の学修・社会に出てからも、役立つものになると思いますので、必要に応じて振り返っていただき、内容に興味を持たれた人は、図書館の本などでさらに深く学修していただければ幸いです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	遺伝学				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.2	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>臨床検査技師は主に分子遺伝学に関わるが、古典的遺伝学の基本も把握していれば、理解がさらに進みます。難しいと決めつけず、これから主流になる遺伝子検査の基礎として、遺伝学の概要を大事にしましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	総合医学検査演習				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.7	4.2	4.2	4.4	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>国家試験を受けた際の緊張は想像以上だったと思いますが、その緊張を克服できた理由は総合医学検査演習は国試形式で演習を繰り返し、試験中の時間配分感覚をつかみ、マークミスを防ぐことの重要性を修得できたことも大きいでしょう。</p> <p>何事も繰り返せば自信もついて目標を達成できます。この経験を大事にし、社会に出ても十分な準備を行いましょ。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	総合医学検査特論				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>国家試験は基本を忠実に学修していれば解けることを実感出来たと思います。覚える基本や理解する基本が多いだけに、地道に取り組むことが大事で、一種のトレーニングとも言えます。これからも基本を大事にし、社会の役に立てるように活躍を願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	卒業研究				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.5	4.5	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>研究は実習と異なり答えは分かって無いので、自身の出した結果が正しいかを自身で示すことが必要です。そのために皆さんは知恵を出し合い、立派に成果をあげました。今後もこの経験を大事に、成長されることを願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	文献購読				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.4	4.6	4.4	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>知らない事項を理解すればさらに興味が更にわき、新たな疑問が生じてもっと調べたくなる。英語論文も同様に読むコツが分かると、知識を得るためにドンドン読みたくなります。この習慣は自己成長の秘訣で、文献購読での体験を大事にしてさらに成長を願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	解剖組織学				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.2	4.2	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>アンケートの自由記載欄には、『スライドやプリントが見やすかった』、『イラストや説明が簡潔で分かりやすかった』という意見がありました。配布資料の内容、分量は詰め込み過ぎず、簡略化しすぎず、を目標に今後も工夫を続けていきます。『たまに話すのが早い時があった』という意見もあり、話すスピードや間を入れるなどを意識していきたいと思います。</p> <p>2年次では、病理学と一般検査学・一般検査学実習でお目にかかります。どの科目も、解剖学の知識が必要とされますので、各講義の導入部分で解剖学に関する話を取り上げます。本講義で使用した教科書「最新臨床検査講座・解剖学」は、200 ページとコンパクトにまとめられており、2色刷りの図もシンプルで見やすいと思います。解剖学の教科書はいつでも取り出せるところに置いておいて下さい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	一般検査学実習				
担 当 者	新谷路子、今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>講義で聞いただけでは、尿定性試験紙検査の手技や原理は頭に入りにくかったと思いますが、実習で毎回のように定性試験紙を手に取り検査し、レポートを書くことで理解が深まったのではないかと思います。</p> <p>アンケート結果『I. 学生自身のポイント』が、学科平均が 3.8 であるのに対し 4.2 と高くなったことから、みなさんが各回のレポートや尿検査パンフレット、尿沈渣 my ハンドブックの作成に熱心に取り組んだことがうかがえます。</p> <p>3年後期に臨地実習に出た際は、尿検査や尿沈渣を行いますので、自作の my ハンドブックを大いに利用し、臨床現場でさらに内容を追加していただければ嬉しいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学Ⅱ				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.3	4.5	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。自転車操業だった前期に比べると、課題シートの記載内容を毎回確認することができ、フィードバックしながら授業を進めることができたと思います。皆さんからのコメントは、私にとっても教えられること、学ぶことがとても多かったです。「復習時と履修後の違いがやっぱりよくわかりません。」とのご意見もありましたが、ご理解、ご協力をいただきながら、続けていきたいと思います。毎回、しっかり復習し、様々なご意見、ご質問をお寄せいただいたこと、本当にありがとうございました。教科書中心だった前期に比べて、後期ではスライドが中心となり、「スライドを用いた説明がわかりやすい」と評価いただいた一方で、教科書を読み飛ばすことも多く、「教科書をつかって教えてほしいです」とのコメントもいただきました。スライドと教科書のバランスを考えながら、もう少し丁寧に説明できるよう、次年度の公衆衛生学ⅠⅡで工夫していきます。「授業中に穴埋めなどの作業ができるといいな」については、次年度の各教科で実現できるよう頑張ります。「公衆衛生の面白さに気づきました！」嬉しいです。もっともっと公衆衛生の楽しさ、大切さを知ってもらえるよう頑張ります。「味木先生だいすきです〜♡」光栄です。ありがとうございます。私も学生の皆さんがだいすきです。</p> <p>これからも、気がついた点を教えてもらい、一緒に考えながら、より丁寧にわかりやすい授業に努めます。2年次の保健医療福祉総論でも、引き続きよろしくお願ひします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床病態学Ⅱ（病態解析）				
担 当 者	井本、岩越、塩谷、中野、味木				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.1	4.3	4.2	4.0	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>「出欠確認や講義の管理がどの授業よりも丁寧にされていると感じました」とのコメントをいただきました。ありがとうございました。教科書を中心に味木が一人で担当する「臨床病態学Ⅰ」とは異なり、専門性の異なる複数の教官から、専門的な最新の講義を受けることができます。臨地実習に出る前に、より知識を深め、より実践的な内容となるよう、引き続き努めてまいります。「臨床病態学Ⅲ」も専門講義です。楽しみにしてください。（味木）</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理検査学実習 I				
担 当 者	布引 治、佐野 太亮、梶山和樹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.5	4.6	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>皆様のご協力で薄切のケガもなく例年より順調に実習を行えました。病理検査の基本技術が身についたと思います。</p> <p>コメントを書してくれた方ありがとうございます。次年度授業の参考にさせていただきます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理検査学				
担 当 者	布引 治、佐野 太亮、梶山和樹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.3	4.3	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>病理検査の基本技術について、講義を通じて理解を深めていただけたことと思います。3 年前期では「実習Ⅱ」として、より実践的な技術を学ぶこととなります。そして、後期には病院での臨地実習が始まります。学びが進むにつれて、ますます面白くなっていくと思いますので、ぜひ楽しみにしててください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	細胞検査学演習				
担 当 者	布引 治、佐野 太亮、梶山和樹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>この科目では、多くの細胞像を教材として供覧しました。今回は、顕微鏡を使用せずにバーチャルスライドを試験的に導入しましたが、大きな混乱もなく、有効に活用できたことと思います。細胞検査の技術は、多くの細胞像を観察することで磨かれていきます。細胞の魅力にはまった方もいるのではないのでしょうか。</p> <p>授業を通じて、細胞検査士の仕事の魅力や臨床検査の素晴らしさを感じ取っていただけたら幸いです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	遺伝子・染色体検査学				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>お疲れ様でした。毎回の manaba 小テストに加えて紙ベースの演習課題もあり、講義科目にしては課題が多いなと感じていたと思います。これを乗り越えた皆さんは、きっと3年前期の「遺伝子・染色体検査学実習」も余裕で乗り越えられるはず。</p> <p>授業では、最新の遺伝子検査の話題にも触れましたが、重点は基本的な解析原理の理解に置きました。最新の遺伝子検査を理解するためには、基盤となる解析法の徹底的な理解が必要だという考えからです。皆さんが医療の現場で新しい課題に直面した時に要求されるのは、「自分自身の力で調べ・考え・解決する」ことです。医療の専門家として問題解決にあたる時、解析原理を深く理解したうえで、「考える→参考資料を探す→資料を読む→考える→人に聞く→考える→ディスカッションする→考える…」と、あらゆる手を使って諦めずに前に進めるよう、専門的な知識とともに「考える力」もつけていってください。</p> <p>手っ取り早く知識を得ることだけを求めている「考える力」は身に付きません。面倒ですが時間をかけて考える経験を積んでいってください。</p> <p>以下のコメントを頂きました。ありがとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDF が manaba にあげられているのが良い。→授業中、スライドを写すのが目的になってしまわないように manaba にあげています。実習や国試対策でも見直して活用してください。 ・将来の選択肢の幅が広がった。→遺伝カウンセラーのことですか？ これからますます必要性が増してくる職業です。チャレンジするのであれば、早めに M 科の教員に相談して、院試対策を始めましょう。 <p>次は3年前期の「遺伝子・染色体検査学実習」です。実験して→データを出して→「考える」ことの連続です。頑張りましょう！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生命科学				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.4	4.3	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>1年後期になって、「難しい科目が増えてどうしよう」と思った方は多かったと思います。この時期は、専門科目（検査学）を学ぶために必要不可欠な基礎知識を積み上げていく時期でもあります。</p> <p>「生命科学」は恐ろしい勢いで進歩している分野で、テキストの内容もどんどん書き換えられています。また特に授業の後半に学んだ内容は、これから皆さんが専門科目で疾患の成り立ちと診断・治療について理解するうえで重要になってくる部分です。</p> <p>2年になると専門科目も増えて、今まで以上に授業外学修の重要性が増してきます。「生命科学」でつけた学修習慣をキープして先に進んでいってください。学び続けることで興味もわいてきます。</p> <p>数名の方からコメントをいただきました。ありがとうございます。</p> <p>評価していただいた点は…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント、スライド、小テスト→小テストは決して皆さんをいじめるためではなく、理解を深めるために用意しています。わかってくれてありがとうございます。 ・生徒参加型の授業、身振り手振りのある説明→なんとか皆さんに「楽しんで」もらおうと頑張っています。 ・すごく生命に興味がわいた。→うれしいです！ <p>改善点としては…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義資料がみにくい。順番がぐちゃぐちゃ。→具体的にどの項目のことが教えていただけると、次の学年で改善できます。ぜひ。 <p>次は2年後期の「遺伝子・染色体検査学」につながります。更に難しくなりますが、頑張ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	環境生理学				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	3.9	3.8	4.0	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。授業内容、授業方法、学習の成果、総合評価共に学科平均より 0.2~0.3 ポイント低かったことから、2 年前の 22 年度と比較して同等の評価はいただけませんでした。「授業以外に学習した時間」の項目でかなり低い評価であったのは 23 年度とかわらず、科目自体に興味をもってもらうことが第一優先かと思います。この評価を上げるようにすればかなり高評価につながると感じています。臨床検査技師教育にプラスとなることを大きくアピールして、みなさんに自宅学習の時間を増してもらいたいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習Ⅱ				
担 当 者	堀江修 澤村暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.3	4.2	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>課題と実習レポートの内容を明示しレポートの作成や提出をわかりやすくしました。そのため、「聞きやすい話し方」という項目以外すべて学科平均を上回るか同程度でした。以下のとおりです。Ⅰ学生自身 (4.3/3.8: 当科目平均 / 学科平均とする)、Ⅱ授業内容 (4.3/4.2) およびⅢ授業方法 (4.2/4.2)、Ⅳ学習成果 (4.3/4.2) およびⅤ総合評価 (4.4/4.3) です。実習科目の授業評価で各項目に波及するポイントがひとつあって、それはレポート判読です。レポート判読に高い点が得られると、他の項目が引きずられて授業評価がよくなるのはわかっていますが、他教科との兼ね合いもあって、今年度も判読にあまり時間はかけられませんでした。とくに今年度はカリキュラム改革によって実習を週に2日実施した初年度となりました。効果的で短期集中型のレポート判読をこれからも模索していきます。今年度は学生自身の学科平均が3.8とそれほど高くなく、これほどの教科においてもあまり自宅学習に時間をかけていない証拠であり、この点みなさんの奮起をうながしたいところです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	血液検査学Ⅱ				
担 当 者	堀江修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	3.9	3.8	3.8	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅱ授業内容 (3.9/4.2: 当科目平均 / 学科平均とする) およびⅢ授業方法 (3.8/4.2)、Ⅳ学習成果 (3.8/4.2) およびⅤ総合評価 (3.9/4.3) のように、学科平均をかなり下回りました。今年度の特徴は 7.5 コマの授業のうち前半はかなりうまく運べたものの、後半になって授業が空コマになったりして間延びした感覚が全体の印象を決めてしまったところにあります。授業においては課題等を出題しているものの、解答は学生自身が作成する方法をとっているため模範解答がなく、これが低評価の原因のひとつになっています。今後は無理のない課題を出題し、解答も作成しながら授業をすすめるようにします。私自身勉強が少し足りていないところがありますので、もっと勉強に時間をかけて授業に臨みます。「聞きやすい話し方」(3.6/4.2) は 0.6 ポイント以上下回っているので、聞きやすいしゃべり方を心がけたいです。Ⅰ学生自身 (3.2/3.8) となっているところは、血液学に興味を湧いていないことを意味しているので、血液学に興味を持ってもらうためにも、これを機に内容の完全 up date を目指します。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	生理機能検査学実習 I				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。全体的に高評価、且つ全ての項目で学科平均を上回っていました。特に「授業以外に学修した時間」や「自分で調べ、考える姿勢が身についた」などの項目で高いポイントでした。これは、予習やレポート課題に多くの時間を使っている結果と推察され、皆さん自身が真剣に実習に取り組んで頑張った結果だと思えます。頂いたコメントでは「実習を通して座学で学んだことを確認できた」とのご意見に代表されるように、実習では座学の知識をベースに実践的な技術を積み上げていくため、知識も大事であり、また知識を定着させるためにも、実習を大事にしていきましょう。</p> <p>レポートは大変ですが「自ら考え、調べ、それらをアウトプットしていく」という作業が、皆さんの力になり、知識や経験を自分のものにしていく重要なプロセスなので、(記載すべき内容は精査の上、今後も適宜削ることを考えていきますが) これからもご自身の学修のために、しっかり予習をして実習に臨み、復習としてより質の高いレポートを作成していきましょう。</p> <p>また、実習中の機器が空くまでの待ち時間や、質問のタイミングが重なり教員がすぐに対応できない時でも、お互いに協力してグループのメンバー同士、あるいはグループを越えて教え合いながら、限られた時間の中で効率よく進めているチームワークが印象的でした。時間を無駄にすることなく、共に挑戦しながら進めていく皆さんの姿勢に、背中で感動しておりました。このような姿勢は、現場に出てからも必ず良いお仕事が出来ると信じています。</p> <p>さらに、接遇についても積極的に声を掛け合ったり、相手の立場に立って考え、行動したりする様子が窺えました。何事も、初めは失敗もあるかもしれませんが、不安もあると思います。ですが、学内実習では(誰に対しても気遣いや配慮は欠かせませんが) 学生さん同士で互いに失敗をしたり、改善策を練ったりしながら、今しか出来ない経験を沢山してください。必ず将来に生かされると思います。生理機能検査は患者様だけでなく、機器や周辺環境、また患者様のご家族の方々に至るまで、多く人も物も状況も見する必要がありますが、とても面白い学問であり、実践の科学です。来年度も予習から積極的に取り組んでいきましょう。皆さんにとって充実した実習になるよう、改善策や皆で学ぶための良い案があれば、その都度に取り入れていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いします。3年次も頑張りましょう！(循</p>					

環器担当：浦)

授業評価に回答いただきありがとうございました。脳波・筋電図の実習は、前期に「生理機能検査学Ⅱ」を履修した上で行われます。レポートでは「座学ではよくわからなかったが、実習をすることで理解できた」という感想がチラホラ見られました。座学と実習を並行して実施するのが理想的ですが、多くの科目は座学→実習の流れになっています。座学では、検査に関連する基礎知識をしっかりと身につけ、実習では「座学で学んだ知識がこう繋がるのか！」と理解を深めることが大切です。輸血・移植検査学は、前期に座学、後期に実習を行います。上記を意識して授業に臨んでみてください。また、3年前期には呼吸機能検査と ABR 検査の実習（今西担当）があります。呼吸機能検査については、後期の「生理機能検査学Ⅲ」で配布した資料のうち、検査に関するものを読み直し、原理を理解した上で実習に臨むことをお勧めします。

(脳波・筋電図担当：今西)

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生理学Ⅱ				
担 当 者	堀江修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	3.8	3.7	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身 (3.5 / 3.8 : 当科目平均 / 学科平均とする)、Ⅱ授業内容 (3.8 / 4.2) およびⅢ授業方法 (3.7 / 4.2)、Ⅳ学習成果 (3.9 / 4.2) およびⅤ総合評価 (4.0 / 4.3) のように、学科平均を0.3程度下回りました。昨年度よりもその差は開いたこととなります。生理学はどちらかというと古典的な学問で、大きな topics というのは少ないです。新しいことで興味を引くようにすることは期待できないため、医学基礎力を高めるような授業を心がけたいです。そのためには難しい教科書を徹底的に理解してもらうことを目指します。「聞きやすい話し方」(3.5 / 4.2) は0.7ポイント以上下回っているため、ここを最優先に改善します。極端に評価が低いところをそれぞれ修正して、平均点以上の授業に改善したいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	生理機能検査学演習				
担 当 者	砂見愛子、今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.4	4.3	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>今回の演習では、これまで学んできた生理機能検査に関する知識を活かし、症例を解決することが目的でした。できるだけ能動的に取り組んでもらいたかったので、口頭で答えてもらう場面も多く取り入れましたが、自分が回答する番でなくても一生懸命調べながら自分の答えを見つけようとしていた姿勢は非常に素晴らしかったと思います。生理機能検査のまとめとしての授業であったため、非常に広範囲な内容で、少し速いペースになったかもしれませんが、皆さんが積極的に参加してくれたおかげで、充実した時間となりました。来年度は、もう少し範囲を絞り、じっくり考えながら進める形にしようと考えています。この演習を通じて、生理機能検査の面白さに気づき、今後の臨床検査技師としての歩みに役立てていただければ嬉しく思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	医療工学実習				
担 当 者	関 雅幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	3.9	4.1	4.1	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>学生による授業評価調査は「授業はわかりやすい内容であった。」や「授業は知的関心や好奇心を起す内容であった。」という事柄に対して課題が残る結果となりました。授業中に話したかもしれませんが、皆さんが次に医療工学に向き合うのは4年生で国試対策に取り組むときかと思います。今のうちに、理解できているところ・できていないところはどこか、を整理しているといいかと思いますので、復習しましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	ロボティクス演習				
担 当 者	関 雅幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.5	4.5	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>学生による授業評価調査は「授業はわかりやすい内容であった。」や「この授業を受けて満足している。」等の事柄に対してやや課題が残るという結果になりました。今回はここ数年に比べると多くの方に受講してもらいました。ベースのものを動くようにするにもいろいろ工夫が必要なことを感じられたかと思います。この授業での経験が4年生での卒業研究や就職後の業務に取り組むためのヒントになれば幸いです。</p>					